
ヘンテコリンロボくんの大冒険

サトリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヘンテコリンロボくんの大冒険

【Nコード】

N7853C

【作者名】

サトリ

【あらすじ】

絵本作家の光一と百合のほのぼの短編

私は変わっている。

別に人には言えない性癖が有るわけではないし、現在22歳だが子供を身籠った事もない。

普通の高校に進学しこれまたごく普通な大学に進学してだれにも期待されることなくある商事の経理として就職をした。

だが、変わっている。

それを物語っているのは、私の彼氏だ。

2

「百合」 おはよう」

あまつたるい空気を纏って、私に朝の挨拶……いやキスをしてくるのは私の恋人兼婚約者の岡本光一だ。

「光一おはよう。」言葉にして違和感をもつ。

光一は今パリで仕事のはずなのだ。

この男は結構すごい男で15歳の時に絵本作家としてデビューして
今や日本中で光一の作品知らない子供がいなくらい女性にも子供
にもファンが多い作家だ。

「光一、パリはどうしたの？」

訪ねるといたずらっ子の様に顔をクシャリとして笑う。

「百合に会いたくて帰って来ちゃったよう」

ちなみに、光一の年齢は29歳。

私より7歳も年上の彼は、私より7倍は自由だ。

「溝口さん（光一のマネージャー）に怒られなかったの？」

甘えて私の胸にすりよってくる光一の髪をすきながら問う。

「着信126件来た。」

ケラケラ笑う光一と共に大声を上げて笑う。
こんな時は笑ってしまおう。

「百合！デートしよっ！」

光一の言うデートとはマンションの近くを流れる川原で二人で川を見る事。

3分で飽きて帰る事もあるし、丸1日居るときもある。

今日は1月25日気温は4度だけど迷わず光一の差しのべた手を取る。

容姿普通、性格普通、人に言えない性癖が有るわけではないし、性格もいたって普通。

でも私は変だ。

彼が私を変えてくれた。

だから私は変だろうがかまわない。

ねえ、光一。

私と光一の子供ってきつと変な子供だけどさ、いい子に育つよ。

だって私生まれたら一番に光一の絵本買うからさ、たしか……。

「ヘンテコリンロボくんの大冒険」

ねえ私たちにピッタリでしょ、光一。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7853c/>

ヘンテコリンロボくんの大冒険

2010年12月31日18時34分発行